

### 第3回やまなし農村風景写真コンクール総評

審査委員長 白籟史朗

応募総数583点という大量の作品中からたった17点を選ぶことは至難といえた。まず、四季それぞれに分けられた山から第一次審査で各30点ほどセレクトするが、よく似た作品もあり、そのどちらかをとるのに苦勞する。次にその中からそれぞれ10点ほどに絞ることになるが、これも欲しい、あれも欲しい、で中々思うようにいかない。

最後に残った40点の中から、今度は同じ作者の作品に分け、その中のもっともすぐれたもの1から2点に絞る。1点しか残っていない作者、それがまた皆すばらしいもので、どれも捨てたくないものばかりだが、そうした中からいろんなテーマをできるだけ多く選んで漸くに決定する。

入選した作品のうち、多くは、やはり銀塩フィルムによるもので、その点デジタル写真は少数となる。その多くは色彩の不自然さにあるので、印画にする際、自分でやらず、やはりプロの手に任せた方がベターと考える。アングルもよく、チャンスをうまく捉えているのに発色の不自然さで落選してしまうものがあまりにも多い。

銀塩フィルム使用の中にも、発色の不充分のもの、ピントの悪いもの、場所はよいのにチャンスを捉えるのに、それを逸するものが多い。ベテランが多く入選するのは、そうしたミスが少ないからであり、このことは、ほんのちょっとした注意で是正される。

来期もこのコンクールに対し、多数の応募と好作品が寄せられるのを期待する。